

平成27年度 第1回教育研究評議会議事要録

- 日 時 平成27年4月16日(木) 14:00～16:00
場 所 事務局第1会議室
出席者 三村学長, 伏見理事, 尾崎理事, 袖山理事, 太田副学長, 米倉副学長,
佐川人文学部長, 生越教育学部長, 折山理学部長, 馬場工学部長,
久留主農学部長, 佐藤大学教育センター長, 高橋図書館長, 斎藤評議員,
澁谷評議員, 荒川評議員, 小野寺評議員, 田内評議員, 吉田評議員,
伊藤評議員, 増澤評議員, 中石評議員, 新田評議員
- 欠席者 なし。
- 陪席者 増子監事, 馬場監事, 影山理事, 内田学長特別補佐, 木村学長特別補佐,
大塚執行部スタッフ, 原口執行部スタッフ,
総務部長, 財務部長, 学務部長, 学術企画部長, 総務課長, 人事課長,
労務課長, 監査室長, 大学戦略・IR室副室長, 地方創生・広報室副室
長, 財務課長, 学務課長, 企画課長, 各学部事務長

議 題

審議事項

- 1 平成27年度の目標と重点方針
- 2 平成27年度茨城大学重点研究認定(新規)について
- 3 茨城大学名誉教授の選考について
- 4 第3期における運営費交付金在り方について
- 5 第3期中期目標・中期計画素案について

報告事項

- 1 平成27年度学長リーダーシップ経費の執行について
- 2 教員の人事について
- 3 平成27年度大学ポータル事業参加に係る意向確認について
- 4 平成27年度茨城大学推進研究プロジェクト認定(継続・新規)に係る審査結果について
- 5 平成27年度茨城大学入学試験実施及び受入状況について
- 6 平成27年度茨城大学大学院入学試験実施及び受入状況について
- 7 茨城大学国際戦略室規程の制定について
- 8 茨城大学特命研究員の名称付与について
- 9 監査室定期報告について
- 10 政策配分経費(教育改革推進経費)公募要領の策定について
- 11 その他

議 事 概 要

I 議事要録の確認

- 1 学長から, 平成26年度第11回及び臨時教育研究評議会議事要録については, 既にホームページに公表済みである旨, 報告があった。
- 2 学長から, 報告事項については, 教育研究評議会開催の1週間前に, 評議員宛にガルーンで事前公開し, 個々に説明は行わない。特に説明が必要

な場合や質問がある場合は発言いただく旨の報告があった。

II 審議事項

1 平成27年度の目標と重点方針

学長から、平成27年度の目標と重点方針について、審議願いたい旨の提案があった。さらに、学長から、資料1に基づき説明があり、審議の結果、提案のとおり平成27年度の大学運営にあたることが了承された。

2 平成27年度茨城大学重点研究認定（新規）について

学長から、平成27年度茨城大学重点研究認定（新規）について、審議願いたい旨の提案があった。さらに、尾崎理事から、資料2に基づき説明があり、審議の結果、提案のとおり認定することが了承された。

3 茨城大学名誉教授の選考について

学長から、茨城大学名誉教授称号授与規程第4条の規定に基づき、関係学部教授会の議を経て推薦のあった候補者13名の名誉教授称号授与について、審議願いたい旨、資料3に基づき提案があり、関係学部長から名誉教授選考調書等に基づき、推薦理由の説明があった。引き続き、茨城大学教育研究評議会規則細則第2条の規定に基づき投票を行った結果、13名の候補者全員に本学名誉教授の称号を授与することが承認された。

【主な意見】

- 茨城大学名誉教授選考調書（2）学術上の功績・その他において、業績の記載が、頁上から年代順または逆順なので統一したのがよいのではないか。
- 研究分野によって記入の仕方が違うので、今後検討する。
- 茨城大学名誉教授選考調書の（2）学術上の功績・その他において、著書・論文本数が多数とあるが、本数を明確に記載すべきではないか。
- 今後は本数を明記するようにする。

4 第3期における運営費交付金在り方について

学長から、第3期における運営費交付金在り方について、審議願いたい旨の提案があった。さらに、学長から資料3-1に基づき説明があり、審議の結果、提案のとおり了承された。

【主な意見】

- 重点支援①～③とあるが、以前は③が最初であったが今回は①が最初にあるが①を上位と考えるのか。
- ①～③と分けることで、大学のランク分けに繋がるのが懸念されたが、文科省の説明では、各大学がどのような役割を果たすかというもので大学を序列化するものではなく、①～③の順序に特に意味はない。
- 平成27年度における「学長の裁量による経費（仮称）」は、全体予算の何%になるか教えていただきたい。
- 平成27年度は5%であり、金額にすると2億4千万円程度となる。第3期は7.39%であり、3億6千万円程度としている。
- 効率化係数（1%）より大きくなるのではないかとあるが、平成25年11月26日の大学改革プランでは、改革の達成度による配分として運営費交付金の30～40%とされ、この数値とかなり乖離があり、あまりにも小さいと思われる。
- 憶測だが文科省が公言した数値ではない。今回の3つのカテゴリーで配分率に差をつけることが推測される。1%はないだろうと想定される。
- 評価指標について、査定・評価のプロセスはどのようなものか。
- 基本的には自己評価になるが、3年、5年経過後に達成状況を評価し配分率

が変動されることが想定される。実績が目標に対して達成されているか評価される仕組みは今現在と変わらないが、より明確化されていくことが推測される。

5 第3期中期目標・中期計画素案について

学長から、第3期中期目標・中期計画素案について審議願いたい旨の提案があった。さらに、太田副学長から、資料3-2に基づき説明があり、審議の結果、提案のとおり了承された。

【主な意見】

- 第3期中期目標期間終了時点でTOEIC700点以上の学生が20%とあるが、大学のシステムを学士課程一貫で整備しないと相当厳しいのではないか。
- 第3期は第1期、第2期よりも意欲的な数値目標を求められており、仮に目標に達しなくても意欲的な事は評価されるのではないか。現状だけ見て厳しいというのは如何か。20%の学生のことを記載するのではなく、80%の学生をどのようにするかを記載すべきではないか。
- 大教センターだけで達成できる数値ではない。専門課程においても英語の授業をどのように実施していくか、英語を意識したカリキュラムを整備する必要があり、学部の努力も必要である。
- 入試で英語に対して意欲がある、伸びる可能性のある学生を確保できるかが重要ではないか。ただし、人文や教育学部の語学系は縮小傾向にあり、これまで以上に英語を強化となるとやはり厳しい。
- 学生全体の英語教育を強化する面と、高レベルな英語教育の実施する両面の環境を整備する必要があるのではないか。

III 報告事項

- 1 平成27年度学長リーダーシップ経費の執行について
学長から、資料4に基づき報告があった。
- 2 平成27年度茨城大学入学試験実施及び受入状況について
伏見理事から、資料8に基づき報告があった。
- 3 平成27年度茨城大学大学院入学試験実施及び受入状況について
伏見理事から、資料9に基づき報告があった。
- 4 その他
教育学部長から、文科省折衝の概要報告があった。

IV 監事からの意見

・第3期中期目標・中期計画の議論にあったように、今後ますますIR機能が重要になると思う。一例ではあるが、本学の正規と非正規を合わせた留学生数はここ数年減少傾向にあり、これを増やすと言う以上はそれなりの根拠を示す必要がある。

・入学定員の充足は大きな課題であるが、特に大学院の充足状況は、大学改革とも関連して注目して行きたい。

・文部科学省との交渉のベクトルの向きがいつの間にか違った方向を向くことのないよう、折衝の内容をオープンにして頂くことは大変結構なことである。

V その他

教育研究評議会会議資料の公開について

学長から、資料の公開について、以下のとおり確認があった。

公 開：資料 1, 3-1, 4~5, 10~13,

非 公 開：資料 3-2, 6, 8~9

一部非公開：資料 2~3, 7

○ 次回教育研究評議会開催 5月14日（木）14時から